

## 第5学年 図画工作科 授業構想シート

授業者 西原 有香莉

本実践の主張点	素材と空間の両方に働きかける造形活動を行う事で、自他の活動の意味や価値へのより深い理解を促すと共に、“表したいこと”への思いを強め、イメージの創造を実現する力を育むことができるだろう。
---------	--

### 1. 単元名 ワイヤーの森～未来から種がとんできた！？～

### 2. 5年C組の子ども

<p>本学級の子どもたちは、高学年という発達段階でありながら、感覚の世界を楽しめるよさを未だ持ち続けている。1学期に、色づくりをし、その色に名前を付ける活動の中で自分の経験と結びつけ、発想豊かに色の名前をつけていく姿が見られた。また、身の回りにあるものをアルミホイルで包んだ“かたち”を組み合わせて抽象的な形をつくり、自分なりのいいなと思う形を追い求めている姿も見られた。これらの姿から、本学級の子どもたちのよさを実感している。</p> <p>5Cの子どもたちがもつ感性の豊かさを生かすことや、新たな表現や活動を生み出していくことの喜びを感じながら活動することで、探究的な学びが実現できると考え、本単元を設定した。</p>
---

### 3. 何ができるようになるか

探究力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・素材や場・空間に対して感性的に働きかけることや、素材に関する造形的な知識・技能を活かして制作することを通して、自他の表現や活動に意味や価値を見出すと共に自分なりの表現を生み出していくことの喜びを感じながら活動する力</li> </ul>
省察性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自他の働きかけによる、素材や場・空間の多様な変化を認識することから、更なる表現の可能性を感じ、自己の思いを表現に反映させていく力</li> </ul>

### 4. 何を学ぶのか

#### ① 単元の目標

<ul style="list-style-type: none"> <li>・アルミ線の特徴を理解すると共に、その造形のよさを生かす工夫して立体構成する。(知識・技能)</li> <li>・場、空間の様子を考え合わせながら、アルミ線の特徴を生かした立体構成を多様に試みる。(思考力・判断力・表現力)</li> <li>・素材の魅力を感じ、自分らしい表現や活動をつくり出すことの喜びを味わうと共に、その実現に向かおうとする。(主体的に学習に取り組む態度)</li> </ul>
--

#### ② 教材の価値

<p>針金は、子どもの働きかけがそのままの形で保持され、形の変更も容易であることから、扱いやすい素材である。そのような特性から、「線材からの立体構成」のような造形活動が行われてきたが、一方で、近年図画工作科で扱われることが、少なくなってきたような印象がある。その理由の一つは、立体としての表現をすることが比較的難しいということが考えられる。しかし、立体素材としての扱いにくさは、一方では「線材から立体を表現する」ことの本質にかかわる難しさであり、その難しさは学ぶべき価値でもあり、魅力的な部分でもある。</p> <p>本題材では、アルミ線を用い、ぐにやぐにやと自在に姿を変える柔らかな線と張力をもって張った時にみせる緊張感のある直線の2つの特性(素材の魅力)を子どもたちに示したい。そして、素材体験を積み重ねていく中で、針金にかかわる造形の技法を発見すると共に、多様に变化する針金を目の当たりにすることから、表現の可能性を探り始めることを予想している。</p> <p>また、ワイヤーの森というテーマ設定は、それまで獲得してきた素材体験における学びの活用を促し、針金の特性を活かした有機的な柔らかな表現を導き出すと考える。更に、植物として意味づけられることで、アルミ線のつくり出す曲線のよさや光りの美しさを改めて味わうことにもなるだろう。素材に関する新たな気付きが、イメージを膨らませ、“表したいこと”への思いを更に深めていくことを予想している。そして、自分や他者の働きかけにより教室の風景が変わっていくことから、場や空間を変化させることのおもしろさを感じることや自らが創造者であることの自覚につながり、創造への意欲が高まることから、探究的な学びが実現できると考える。</p>
---

### ③学年間・教科間のつながり

1学期から、「形や色」を造形的な視点で捉え自分なりの意味や価値を見出すことを目指し、表現活動を行ってきた。特に「形」に関して、見る方向によって自身にもたらされるイメージが異なることを、鑑賞活動により体験している。本時では、そのような造形的な視点を働かせることで、自他の表現のよさや多様性を感じながら「表したいこと」の実現に向けた表現の探究が行われることを期待している。また、1学期にアルミホイルによる造形活動も行っていることから、素材の特性においてアルミ線との共通性を見出し、造形の技法や造形操作の方法における模索を促すと考える。

また、国語科「すいせんしょう」と関連させることで、感性と知性の両面から、表現の価値や意味の実感を促すことにつなげていきたい。

## 5. どのように学ぶのか

### ①働かせたい思考スキル

くらべる    つなげる    まとめる    広げる    予想する    見方を変える

### ②学習内容を理解し、資質・能力を育成するための学習過程

<p>単元計画（全7時間） 本時 5/7</p> <p>第1次 ワイヤーで何ができるかな？ ～切る・曲げる・つなげる の技に挑戦しよう～ <u>①曲げて、曲げて、つくってみよう！</u> 曲げるだけでどんな形ができるかな？ <u>②、③切って、つないで、試してみよう！</u> 切る・つなぐ の技も使うと、どんなことができるかな？</p> <p>第2次 ワイヤーの森～未来から種がとんできた！？～ <u>④、⑤ワイヤーの森をつくろう！（本時）</u> 見たことのない植物を生やし、教室をワイヤーの森に変身させよう。 <u>⑥不思議な植物図鑑をつくろう</u> つくった植物の説明書をつくろう。 <u>⑦ワイヤーの森の写真家になろう</u> お気に入りの場所やいいなと思うところを探して写真を撮ろう。また、その良さを伝えあおう。</p>	<table border="1"> <tr> <td></td> <td>単元における授業づくりのしかけ</td> </tr> <tr> <td>探究力を育む</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・つくりかえ可能な素材や、発想を広げるテーマの設定により、それぞれの感性に基づいた“表したいこと”の獲得を促す。</li> <li>・必要に応じて見合える場の設定により、より豊かで自由な発想によるイメージをもつことやその実現に向かえるようにする。</li> <li>・造形遊びによる素材体験から立体造形へと発展的な題材構成をすることで、自分なりの表現のより深い探究を促す。</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td>省察性を育む</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教室という空間がそれぞれの造形活動の中で変化していく過程の体験を通して、自他の表現活動の意味や価値の実感を深める。</li> <li>・制作の各段階で鑑賞活動を行うことで、表現主題の形成を促すと共に、その実現に向けて、造形の技法や造形操作の方法を模索するようにする。</li> </ul> </td> </tr> </table>		単元における授業づくりのしかけ	探究力を育む	<ul style="list-style-type: none"> <li>・つくりかえ可能な素材や、発想を広げるテーマの設定により、それぞれの感性に基づいた“表したいこと”の獲得を促す。</li> <li>・必要に応じて見合える場の設定により、より豊かで自由な発想によるイメージをもつことやその実現に向かえるようにする。</li> <li>・造形遊びによる素材体験から立体造形へと発展的な題材構成をすることで、自分なりの表現のより深い探究を促す。</li> </ul>	省察性を育む	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教室という空間がそれぞれの造形活動の中で変化していく過程の体験を通して、自他の表現活動の意味や価値の実感を深める。</li> <li>・制作の各段階で鑑賞活動を行うことで、表現主題の形成を促すと共に、その実現に向けて、造形の技法や造形操作の方法を模索するようにする。</li> </ul>
	単元における授業づくりのしかけ						
探究力を育む	<ul style="list-style-type: none"> <li>・つくりかえ可能な素材や、発想を広げるテーマの設定により、それぞれの感性に基づいた“表したいこと”の獲得を促す。</li> <li>・必要に応じて見合える場の設定により、より豊かで自由な発想によるイメージをもつことやその実現に向かえるようにする。</li> <li>・造形遊びによる素材体験から立体造形へと発展的な題材構成をすることで、自分なりの表現のより深い探究を促す。</li> </ul>						
省察性を育む	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教室という空間がそれぞれの造形活動の中で変化していく過程の体験を通して、自他の表現活動の意味や価値の実感を深める。</li> <li>・制作の各段階で鑑賞活動を行うことで、表現主題の形成を促すと共に、その実現に向けて、造形の技法や造形操作の方法を模索するようにする。</li> </ul>						

## 6. 何が身に付いたか

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アルミ線のよさを生かし、表現技法を効果的に活用することで立体構成をしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・素材にかかわる中でイメージを広げ、素材や場の特徴を生かした様々な表し方を思いついている。</li> <li>・素材のよさや場・空間の特徴を感じ、テーマを生かした表したいことを見つけている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アルミ線の特徴やその造形が生み出すよさを感じることで、また空間が変化していくことのおもしろさを味わいながら、立体造形を行っている。</li> <li>・線材を使って立体表現を行うことに興味を持ち、素材や場を生かした表現に意欲的に取り組んでいる。</li> </ul>
*単元を通して評価			

## 図画工作科学習指導本時案

授業者 西原 有香莉

日時：令和元年11月3日（日）第1校時（9：10～9：55）

対象：第5学年C組 28人

場所：5年C組教室

本時の主張点	前時までの造形の場合更にアルミ線を張り巡らせ、新たに造形可能な場を設定することにより、植物の造形表現に関してイメージの広がりを与えると共に多様な造形技法の活用を促し、立体的な表現活動における探究的な学びが実現するだろう。
--------	--

### 1. 本時の構想と学習課題について

前時までに、子ども達はアルミ線に関する素材体験を通して、多様な造形技能を獲得していると考えられる。そのような子どもたちの探究的な学びを支え、促すために、「未来からとんできた種の植物をつくる」とことと「教室をワイヤーの森に変化させる」という学習課題（テーマ）を設定する。これらにより、子どもたちの豊かな発想力に刺激を与えることや、植物の“形”の表現に広がりをもたらすと考えている。

また、前時から教室で植物の造形を始め、本時は2時間目となる。前時までに、机の脚や柱、部屋の隅などへ植物を生やしていく活動が展開されていることを予想する。本時では、天井から子どもたちの手の届くところまで針金を張り、これまでは造形できなかった空間にも働きかけが可能となる場づくりをする。アルミ線が張られることで、さらにそこにアルミ線を巻き付けて蔓のように生え伸びていく植物や自分より背の高い所から垂れ下がってくる植物などの造形ができるようになり、更に多様な植物の表現が生み出されていくと考える。新たな場の設定が、イメージを膨らませると共に「表したいこと」を思い付き、新たな表現や活動を更に生み出していくことを予想する。そして、前時以上に変化を見せる教室を目の当たりにすることから、創造的に活動することの意味や価値を深め、また新たな表現を生み出すことに向かい続ける姿が見られることを願っている。

### 2. 本時における探究的な学びと省察性の働き

本時における探究的な学びを「素材や空間、場からイメージを広げ、生やしたい植物を思い付き、表現の技法を活用することで“表したいこと”の実現に向かおうとすること」とする。普段見慣れた教室が、それぞれの活動の中で造形の場合として変化していく。その変化に関わっていることを実感することや変化を知性と感性の両面から体験していくことが、自身の表現活動の意味や価値の実感を促し、さらなる造形活動への欲求を生み出すと考える。

また、協働的な表現の場合は、「上手く表現できない」「どこかテーマにそぐわない」などと感じる子どもにとっては、前時までの造形技能を思い起こさせ、また、テーマ解釈の多様さを自然なかたちで与えることになるだろう。そして、造形活動の中で子どもたちは「表したいこと」をもち始めると共に、その実現に向かうと考える。その過程には、前時までに体験的に学んできた表現技法の活用が見られることを予想している。

さらに、「表したいこと」に向けて試行錯誤する姿は、何度もつくり変え可能なアルミ線によって支えられ、創造活動における探究的な学びを実現すると考える。

### 3. 本時で活用・発揮したいこれまでの学び

前時までに、アルミ線の特徴や表現技法は、知性と感性の両面から獲得していると考えられる。本時では、その表現技法を活用した植物の立体造形が見られるだろう。さらに、前時までの場の設定と異なることから、前時で見られなかった表現技法の活用が見られ、新たな表現が生み出されていくことを予想している。また、これまでに体験的に見つけてきた造形的な視点を働かせることで、変化し続ける場のよさを多様に感じ、つくり出している当事者としての実感を深め、創造活動がより豊かになることを期待している。

#### 4. 本時の目標

- ・表したいことに向けて，アルミ線や場所，空間の特徴を生かしながら，立体造形を行うことができる（知識・技能）
- ・アルミ線のよさや場所，空間の変化を感じ取り，その特徴を活かした造形表現をすることができる（思考力・判断力・表現力）
- ・自らの表したいことを形成すると共に，その実現に向かおうとする（主体的に学習に取り組む態度）

#### 5. 本時の展開

学習活動と予想される子どもの反応	留意点・評価
<p>1. 前時までの活動をふりかえる。</p> <p>○この机の脚の所にワイヤーを巻き付けて，生やしたよ。葉を表現するのに，この技法を使ったよ。</p> <p>○この柱から生えているようにしたよ。固定する時は，この技法を使うといいよ。</p> <p>2. 本時の学習を知る。</p> <p><b>ワイヤーの森を広げよう</b></p> <p>○ここから生やしてみたいな。</p> <p>○ここにまきつけて，蔦のような植物にしよう。</p> <p>○前の，あの技法をつかうといいかも・・・。</p> <p>3. ワイヤーの植物を教室に生やしていく。</p> <p>○前に生やした植物に実をつけよう。まきつける技を使ってみよう。</p> <p>○新しい所に植物を生やそう！上から垂れ下げには，つなげていく技を使うとよさそうかな。</p> <p>○思うようにいかない…。技を組み合わせてみよう。</p> <p>4. それぞれの活動や表現を伝えあう。</p> <p>○この表現が難しかったから，▲▲さんに教えてもらったよ。</p> <p>○この場所から見てほしい！ここがお気に入り。</p> <p>○この植物，不思議でいいな。</p> <p>○横から見ていたけど，下から見た方がいいかも。</p> <p>5. 次時の活動を伝える。</p>	<p>・前時に植物を生やした場所を紹介し合うことで，本時での活動したい場所への思いをもてるようにする。</p> <p>・表現技法を紹介し合うことで，それぞれの「表したいこと」の実現に向けて，見通しをもてるようにする。</p> <p>・天井から子どもたちの手の届く位置までアルミ線を張るところを見せることで，新たに活動できる場が広がることから，本時の造形活動へ期待感を持たせられるようにする。</p> <p>・試してみたい表現技法や活動をすでに思いついている子どもが考えていることを発表する場をもち，活動の見通しをもてていない子どもがイメージを膨らませ，造形活動へ意欲を高められるようにする。</p> <p>・いくつか植物の写真を見せて，発想の広がりをもたす。</p> <p>・活動が止まっている子や悩んでいる子には，その子の思いや発想を大切にしながら，周りの友達の表現にヒントをもらうことや，表現したいことを一緒に探す。</p> <p>・つくっている子どもが気づいていないであろう視点からの表現のよさを伝えることで，多様な鑑賞活動を促すことや自身の表現に対する新たな価値を見出せるようにし，更なる表現の追究に向かうようにする。</p> <p>・それぞれの表現のよさを，造形物と言語で伝え合うことで，活動の価値や意味の明確化を促す。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 20px;"> <p>*単元を通して評価</p> </div>

**知・技** 表したいことに向けて，アルミ線や場・空間の特徴を生かしながら，立体造形を行っている。

**思・判・表** アルミ線のよさや場，空間の変化を感じ取り，その特徴を生かした造形表現を思いついている。

**主** 「表したいこと」を形成すると共に，その実現に向けて造形活動に取り組んでいる。